

自己評価結果シート

NO.	評価項目	判断基準	評価の着眼点	課題等
1	理念・基本方針の実現に向けた中・長期事業計画を策定し、定期的に自己評価（進捗状況の確認・評価・見直しなど）を行っている	2: 理念・基本方針の実現に向けた中・長期事業計画は策定しているが、定期的に自己評価を行っていない	<input type="checkbox"/> 中・長期事業計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 中・長期事業計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて、定期的に自己評価（進捗状況の確認・評価・見直しなど）を行っている。	前年度は中長期計画の策定ができていなかったため、今年度計画を策定にてまだ定期的な評価に至っていない。計画の中に評価時期を盛り込んだためそれによって評価を定期的実施する予定
2	単年度の事業計画を策定し、定期的に自己評価（進捗状況の確認・評価・見直しなど）を行っている	3: 単年度の事業計画を策定しており、定期的に自己評価を行っている	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画には、中・長期事業計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。 <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」「行動計画」になっていない。 <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。 <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて、定期的に自己評価（進捗状況の確認・評価・見直しなど）を行っている。	単年度事業計画に関しては策定および評価もできている。今年度は職員への周知もできたため、来年度以降も継続していく
3	事業所の運営状況や今後の方針等、定期的に事業所の運営について職員間で話し合う機会を設けており、今後の事業運営の改善に反映している	3: 定期的に議論する機会を設けており、事業運営の改善に反映している	<input type="checkbox"/> 職員会議や運営会議等を定期的実施している。 <input type="checkbox"/> 職員会議や運営会議等により、事業所の運営について課題等を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 職員会議や運営会議等により、今後の方針等の検討を行っている。 <input type="checkbox"/> 職員会議や運営会議等により、事業運営の改善に反映しているか確認や評価をしている。	職員会議は不定期ながら実施してきた。今年度はより計画的に実施する。 ・業務改善 ・事業計画 ・研修計画 ・自己目標についての進捗
4	利用者や家族から評価を受ける仕組みがあり、事業計画の見直しやサービスの改善に活用している	2: 利用者や家族から評価を受ける仕組みがあるが、事業計画の見直しやサービスの改善の活用は不十分である	<input type="checkbox"/> 利用者や家族から評価を受ける仕組みがあり、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握・評価されている。 <input type="checkbox"/> 評価結果を分析し、それにもとづく課題が文書化され、職員間で課題の共有化が図られている。 <input type="checkbox"/> 評価結果をもとに、事業計画の見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 評価結果をもとに、サービス改善の方法を検討している。	今年度は利用者満足度調査を実施したがまだ職員へ周知や改善計画の策定にはいたっていないため、来年度は今年度の評価を実施する。また、来年度も引き続き満足度調査を実施するが、アンケート内容がわかりにくいものも多いため、アンケート内容の見直しを行う。
5	関係する多職種など、外部から評価を受ける仕組みがあり、事業計画の見直しやサービスの改善に活用している	1: 外部から評価を受ける仕組みはない	<input type="checkbox"/> 外部から評価を受ける仕組みがあり、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握・評価されている。 <input type="checkbox"/> 評価結果を分析しそれにもとづく課題が文書化され、職員間で課題の共有化が図られている。 <input type="checkbox"/> 評価結果をもとに、事業計画の見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 評価結果をもとに、サービス改善の方法を検討している。	現状、外部評価を受ける体力がまだないため、受ける予定はないが3年以内を目標に外部評価を受けるようにする。
6	新任の職員向けに、事業所の理念・基本方針やサービス提供に係る基本事項等を学ぶための、標準化された研修計画などが用意され、実施されている	3: 標準化された研修計画などがあり、すべての新任職員を対象に研修を実施している	<input type="checkbox"/> 標準化された研修計画は、少なくとも「理念・基本方針」、「訪問看護制度の概要」、「接遇」「リスクマネジメント(事故・感染・個人情報保護・災害・盗難・紛失等)」「多職種連携・地域の社会資源」「退院支援」と「種々の技術」に関する研修の内容となっている。 <input type="checkbox"/> 「1～3ヶ月」「～6ヶ月」「～12ヶ月」などの段階に分けて構成し、それぞれの段階における「目標」「指導内容」「指導方法」を整理している。 <input type="checkbox"/> 研修計画には一般的な知識・スキルの習得とともに、OJTについても計画している。 <input type="checkbox"/> 新任の職員向けの研修が事業計画等において明示してある。 <input type="checkbox"/> 新任の職員向けの研修の担当・役割分担が決められている。 <input type="checkbox"/> 研修期間、3ヶ月後、6ヶ月後など、定期的に面談を行い、目標の達成状況や課題、今後の育成計画について確認している。	訪問看護新任者研修スケジュールとして、概ね4～6か月間での育成を目標としての研修計画を立てている。 外部研修や定期的な面談なども盛り込んでいる。

NO.	評価項目	判断基準	評価の着眼点	課題等
7	本人の意向を反映した職員ごとの育成計画を作成し、当該計画に沿った、OJTや研修を受ける機会の確保等の必要な支援をしている	2:職員本人の意向を反映した育成計画を作成しているが、当該計画に沿ったOJTや研修機会の確保などの支援は不十分である	<input type="checkbox"/> 基本方針や計画にもとづいて、教育・研修が適切に実施されている。 <input type="checkbox"/> 個別面接を行う等により組織(法人、事業所)の目標や方針を徹底し(十分に伝え)、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。 <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。 <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・中間・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度・進捗状況の確認を行っている。 <input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。 <input type="checkbox"/> 外部の研修に関する情報提供を行い、参加する機会を設け、参加を促している。 <input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	来年度に向けて訪問看護師のラダーを使用しステップアップシート記入後セルフブランディングを実施して、面談にて自分自身の強み弱みをプレゼンテーションし、半年間の目標をあげるという形式に変更した。 これにより、自分自身が目標を持って日々の業務に当たることができると考え、またそれを元に研修計画を立案し、OJTに関しても目標の達成度を確認するという目的を持ったものにできるようになると考えられるため、今年度はより充実した現任教育になると考えられる。
8	必要に応じて、早朝・夜間に計画的な訪問ができる体制を常に整えている	2:疾患や状態、時間、頻度によりできないことがある	<input type="checkbox"/> 基本方針に「早朝・夜間に計画的な訪問ができる体制を整える」ことを掲げている。 <input type="checkbox"/> アセスメント結果から誰が訪問を必要とするのか明確にしている。 <input type="checkbox"/> 看護計画に反映されている。 <input type="checkbox"/> 早朝・夜間に計画的な訪問をすることができるスタッフが確保できている。	現在、常勤者が4人であり、定期的な早朝夜間の訪問看護は困難である状態。今のところそのような依頼もない。現利用者について短期間であれば夜間早朝訪問も視野に入れている。
9	必要に応じて、日曜、祝日、年末・年始に計画的な訪問ができる体制を常に整えている	2:疾患や状態、時間、頻度によりできないことがある	<input type="checkbox"/> 基本方針に「日曜、祝日、年末・年始に計画的な訪問ができる体制を整える」ことを掲げている。 <input type="checkbox"/> アセスメント結果から誰が訪問を必要とするのか明確にしている。 <input type="checkbox"/> 看護計画に反映されている。 <input type="checkbox"/> 日曜、祝日、年末・年始に計画的な訪問をすることができるスタッフが確保できている。	常勤者4人にて定期的な日曜、年末年始の確実な訪問は困難。しかし、現状でも現利用者に対しては、必要に応じて対応はしている。新規利用者の夜間早朝訪問看護前提の受け入れは困難であり、常勤者や夜間早朝に動ける看護師が確保できれば可能になる可能性もある。
10	「人工呼吸器を装着している利用者」について、新規の訪問看護の依頼があった場合に、即日に対応もしくは訪問できる体制を常に整えている	2:即日の対応もしくは訪問は、タイミングによっては難しい場合がある	<input type="checkbox"/> 「人工呼吸器を装着している利用者」が在宅生活を送るにあたり必要な物品を準備もしくは調達することができる。 <input type="checkbox"/> 2人以上のスタッフが「人工呼吸器を装着している利用者」の対応もしくは訪問ができる。 <input type="checkbox"/> 「人工呼吸器を装着している利用者」に対応もしくは訪問できるスタッフが即日に対応もしくは訪問するための時間を確保している。(訪問スケジュールに余裕がある)	人工呼吸器の方は現状依頼がない状況で、現利用者の中にもおられず、スタッフのスキルもないため、即日対応は困難。しかし、スタッフへの研修が十分に行えたうえで、対応はできる。
11	「がん末期の利用者」について、新規の訪問看護の依頼があった場合に、即日に対応もしくは訪問できる体制を常に整えている	2:即日の対応もしくは訪問は、タイミングによっては難しい場合がある	<input type="checkbox"/> 「がん末期の利用者」が在宅生活を送るにあたり必要な物品を準備もしくは調達することができる。 <input type="checkbox"/> 2人以上のスタッフが「がん末期の利用者」の対応もしくは訪問ができる。 <input type="checkbox"/> 「がん末期の利用者」に対応もしくは訪問できるスタッフが即日に対応もしくは訪問するための時間を確保している。(訪問スケジュールに余裕がある)	がん末期の方の看護に関しては現在も進行中であり、二人以上のスタッフが対応ができる。しかし、事業所内の訪問の状況によっては即日対応できない場合もある。
12	管理者は事業所の財務状況を定期的にチェックし、経営の安定化に向けた具体的な取組みに反映している	3:財務状況を定期的にチェックしており、具体的な取組みに反映している	<input type="checkbox"/> 財務状況を、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握・評価している。 <input type="checkbox"/> 分析に基づき、具体的な課題や問題点を明らかにし、経営安定化に向けた具体的な取組みが進められている。 <input type="checkbox"/> 財務状況や改善すべき課題は、役員や職員間で共有されている。	現在、財務状況は管理月報や売り上げ管理表を基に毎月顧問税理士とともにチェックしている。その状況は細かい金額はスタッフには伝えていないが、大まかな状況は伝えて共有できているため、以降もこの方法を継続していく。
13	事業所の人事管理において人事基準を定め、職員ごとの評価などを連動させた人材マネジメントを行っている	1:人事基準が明確にされていない	<input type="checkbox"/> 法人の理念・基本方針に基づき「期待する職員像等」を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進、昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。 <input type="checkbox"/> 一定の人事基準に基づき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。 <input type="checkbox"/> 職員の意向や希望について話す機会を設けている。 <input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。 <input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。	現状、ラダーに応じた、賃金体系はできており、それに対しての明確化はできているが、人事考課が十分とは言えないため、より明確化する必要はある。

NO.	評価項目	判断基準	評価の着眼点	課題等
14	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる	2: 職員の就業状況や意向を定期的に把握する仕組みはあるが、改善する仕組みの構築が十分ではない	<input type="checkbox"/> 就業規則、規程等が文書で整備され、職員に周知すると共に、いつでも閲覧できるようにしている。 <input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。 <input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を組織内に設置するなど、職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。 <input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。 <input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 改善策については、就業規則や規程、人事考課、人員体制に関する具体的な計画や勤務体制に反映し実行している。	業務改善の会議がまだ不十分であり、訪問看護ステーションの業務改善と労働環境改善という部分が混在している状況であり、個別と集団の境も曖昧であり、個々のワークライフバランスに応じた業務環境改善には至っていないため、面談時に個々の労働環境改善についても十分に聞き取っていき改善につなげる必要がある。
15	業務の効率化を図るため、記録等関係書類の電子化を行っている	2: 一部の関係書類を電子化している	<input type="checkbox"/> (電子化の予定があり、)電子化について法人・事業所内等で検討し、今後の具体的な計画を策定している。 <input type="checkbox"/> 「訪問看護計画書」や「訪問看護報告書」の作成について電子化している。 <input type="checkbox"/> 「訪問看護記録書」について電子化している。 <input type="checkbox"/> 「訪問看護の情報提供書」について電子化している。 <input type="checkbox"/> 「マニュアル」等について電子化している。	
16	在宅における「医療ニーズの高い方(人工呼吸器を装着している利用者)へのケア」の提供方法が事業所独自のマニュアル等により、職員への周知・理解が図られている	2: 事業所独自のマニュアル等があるが、職員への周知・理解は不十分である	<input type="checkbox"/> 「医療ニーズの高い方(人工呼吸器を装着している利用者)へのケア」について事業所独自のマニュアル等を作成している。 <input type="checkbox"/> 「医療ニーズの高い方(人工呼吸器を装着している利用者)へのケア」やマニュアルについて、カンファレンス等で話し合う機会がある。 <input type="checkbox"/> 事業所独自のマニュアル等の内容を職員が理解している。 <input type="checkbox"/> 「医療ニーズの高い方(人工呼吸器を装着している利用者)へのケア」について、デモンストレーションやOJT等により共通の理解を得る機会がある。	
17	在宅における「終末期ケア」の提供方法が事業所独自のマニュアル等により、職員への周知・理解が図られている	2: 事業所独自のマニュアル等があるが、職員への周知・理解は不十分である	<input type="checkbox"/> 「終末期ケア」について事業所独自のマニュアル等を作成している。 <input type="checkbox"/> 「終末期ケア」について、カンファレンス等で話し合う機会がある。 <input type="checkbox"/> 事業所独自のマニュアル等の内容を職員が理解している。 <input type="checkbox"/> 「終末期ケア」について、デモンストレーションやOJT等により共通の理解を得る機会がある。	現在作成中であり、来年度前半に勉強会予定
18	利用者等に関してカンファレンス・事例検討を実施する機会を設けており、サービスの改善に反映している	3: 定期的に議論する機会を設けており、サービスの改善に反映している	<input type="checkbox"/> カンファレンスや事例検討会等を定期的に行っている。 <input type="checkbox"/> カンファレンスや事例検討会等により、課題等を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> カンファレンスや事例検討会等により、今後の具体的なサービス内容の検討を行っている。 <input type="checkbox"/> カンファレンスや事例検討会等の内容は記録を残し、参加できなかったスタッフへの周知を図っている。 <input type="checkbox"/> 改善への反映について確認や評価をしている。	
19	事故を防止する、あるいは事故が発生した場合の対応方針が、「①医療事故・ケア事故」「②交通事故」「③盗難・紛失・破損等」「④災害」「⑤個人情報保護」などの観点から、マニュアル等により職員への周知・理解が図られている	2: 全ての項目について、事業所独自のマニュアル等が存在するが、内容が不十分もしくは職員への周知・理解が不十分である	<input type="checkbox"/> 「①医療事故・ケア事故」について、事故予防・安全管理や事故発生時の対応、補償対策についてマニュアル等により明示され、適切な対応ができています。 <input type="checkbox"/> 「②交通事故」について、事故予防や事故等発生時の対応、補償対策についてマニュアル等により明示され、適切な対応ができています。 <input type="checkbox"/> 「③盗難・紛失・破損等」について、事故予防や事故発生時の対応、補償対策についてマニュアル等により明示され、適切な対応ができています。 <input type="checkbox"/> 「④災害」について、災害に備えた事前対策、災害発生時の対応等についてマニュアル等により明示され、適切な対応ができています。 <input type="checkbox"/> 「⑤個人情報保護」について、守秘義務等、個人情報保護の方策を取り、適切な方法で記録等を管理し、また、記録開示の手順を整え、適切な対応ができています。	来年度は必須研修として実施予定

NO.	評価項目	判断基準	評価の着眼点	課題等
20	利用者の「①身体の状態(病名、症状、薬剤、栄養、口腔など)」に加え、「②精神的な状態(意向、不安、うつ状態など)」や「③認知機能」、「④生活の状態(ADL、IADL、排泄、食事など)」、さらに「⑤利用者を取り巻く社会的・環境的要因(社会活動、家族の状況、経済状況など)」を含めた、包括的なアセスメントを行い、看護計画に反映している	2: 包括的なアセスメントを行っているが、看護計画への反映は不十分である	<input type="checkbox"/> 利用者について、①身体の状態(病名、症状、薬剤、栄養、口腔など)、②精神的な状態(意向、不安、うつ状態など)、③認知機能、④生活の状態(ADL、IADL、排泄、食事など)、⑤利用者を取り巻く社会的・環境的要因(社会活動、家族の状況、経済状況など)のアセスメントを行っている。 <input type="checkbox"/> ①～⑤を含めたアセスメントを看護計画に反映させている。	現在アセスメントツールを使用していない、個々の力量に頼っている状況にて、適正なツールの利用を検討していく。
21	アセスメントの結果や作成された看護計画について、定期的に管理者やリーダー等が内容の確認やアドバイス等を行っている	3: 全利用者・全職員の看護計画について、定期的に内容の確認やアドバイス等を行っている	<input type="checkbox"/> 利用者の看護計画について、定期的に管理者やリーダー等が内容の確認を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の看護計画について、必要に応じてアドバイス等を行っている。	
22	利用者が、自らの在宅生活や急変時の対応等について主体的な意思決定をすることができるよう、利用者や家族等の意向を踏まえた上で、支援している	3: 全利用者について、利用者や家族等の意向を確認し、主体的な意思決定のための支援を行っている	<input type="checkbox"/> ターミナルの段階に応じてその都度、利用者や家族等の意向を確認する場面を設けている。 <input type="checkbox"/> 利用者と家族等別々に意向を確認している。 <input type="checkbox"/> 利用者や家族等の意向をステーション内で共有している(カンファレンス等)。 <input type="checkbox"/> 利用者や家族等の意向を誰でもわかる形で記録に残している。 <input type="checkbox"/> 利用者や家族等の意向を反映した看護計画を立案している。	
23	利用者等が行う医療的ケア(緊急時の対応方法含む)について、個別性に合わせた説明用の資料を準備し、助言・指導している	3: それぞれの利用者に対して、個別性に合わせた説明用の資料を準備し、助言・指導している	<input type="checkbox"/> 助言・指導が必要な利用者を職員間で共有している。 <input type="checkbox"/> 概ね全てのケースで個別性に合わせた説明用の資料・マニュアルを準備している。 <input type="checkbox"/> 個別性に合わせて助言・指導している。 <input type="checkbox"/> 行った助言・指導の内容について記録し、職員間で共有している。	
24	利用者等の希望に応じた看取りを実現するために、医師や多職種と連携できる体制が整っている	2: 看取りに際して、タイミングによっては連携が難しい場合がある	<input type="checkbox"/> 24時間対応できる体制がある。 <input type="checkbox"/> 土日祝日を含めた365日対応できる体制がある。 <input type="checkbox"/> 看取りに対応できる看護師がいる。 <input type="checkbox"/> 看取りの時に、利用者個別に、医師や多職種と情報の共有ができている。 <input type="checkbox"/> 主治医と看取り時の対応について、事前に確認を行い、内容を記録に残している。対応方法をスタッフで共有している。 <input type="checkbox"/> 医師からの種々の依頼に常に応えられる体制が整っている。 <input type="checkbox"/> 看取りに対応できる複数の医師とのネットワークがある。	
25	終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を説明し、記録として残している	3: 終末期ケアの必要な利用者に対して、予後および死までの経過を丁寧に説明し、記録として残している	<input type="checkbox"/> 予後および死までの経過について説明するタイミングを職員間で共有している。 <input type="checkbox"/> 説明すべき内容をステーション内で共有している。 <input type="checkbox"/> 説明できる看護師が訪問している。 <input type="checkbox"/> 説明内容を記録に残している。	
26	利用者の死後、事業所内でデスカンファレンス等を行い、提供したサービスや判断の妥当性等を振り返る機会を設けている	2: 提供したサービスや判断の妥当性等を振り返る機会を設けているが、不十分である	<input type="checkbox"/> 提供したサービスや判断の妥当性等を振り返るタイミングを事前に決めている。 <input type="checkbox"/> アセスメント、実施したケア、看取りの説明、エンゼルケア、利用者満足度等それぞれの振り返りをしている。	
27	「褥瘡のある利用者」について、多職種・多機関との連携の必要性の判断ができ、情報共有・相談・協力要請を行っている	3: 必要なケースでは、すべて実施している	<input type="checkbox"/> 多職種・多機関に情報提供・依頼すべき内容が判断できる。 <input type="checkbox"/> 多職種・多機関に情報提供・依頼すべき内容について事業所内で情報を共有している。 <input type="checkbox"/> 医師に対し、必要に応じて「治療方法の相談」、「医療材料の相談」、「WOCナースの派遣依頼の相談」等を行っている。 <input type="checkbox"/> ケアマネジャーに対し、変化があった場合に必要に応じて「新たな社会資源の相談」「訪問回数・内容の変更」を依頼している。 <input type="checkbox"/> 介護職に対し、必要に応じて技術についての助言・技術の共有を行っている。 <input type="checkbox"/> その他必要な連携先に情報共有・相談・協力要請を行っている。 <input type="checkbox"/> 連絡ノートやICTにより、多職種・多機関との情報の共有を図っている。	

NO.	評価項目	判断基準	評価の着眼点	課題等
28	「緩和ケア(症状コントロール、医療麻薬の取り扱いなどを含む)」について、多職種・多機関との連携の必要性の判断ができ、情報共有・相談・協力要請を行っている	2: 必要なケースであっても、実施できていないこともある、また不十分である	<input type="checkbox"/> 多職種・多機関に情報提供、依頼すべき内容が判断できる。 <input type="checkbox"/> 多職種・多機関に情報提供、依頼すべき内容、または依頼した内容について事業所内で情報を共有している。 <input type="checkbox"/> 医師に対し、必要に応じて「疼痛緩和の相談」、「症状コントロールの相談」、「緩和ケアナースの派遣依頼の相談」等を行っている。 <input type="checkbox"/> 薬剤師に対し、必要に応じて「医療麻薬の取り扱いの相談」、「薬剤の管理の相談」等を行っている。 <input type="checkbox"/> ケアマネジャーに対し、変化があった場合に必要に応じて「新たな社会資源の相談」「訪問回数・内容の変更」を依頼している。 <input type="checkbox"/> その他必要な連携先に情報共有・相談・協力要請を行っている。 <input type="checkbox"/> 連絡ノートやICTにより、多職種・多機関との情報の共有を図っている。	
29	「精神障がいを有する利用者」について、多職種・多機関との連携の必要性の判断ができ、情報共有・相談・協力要請を行っている	1: 行っていない	<input type="checkbox"/> 多職種・多機関に情報提供・依頼すべき内容が判断できる。 <input type="checkbox"/> 多職種・多機関に情報提供・依頼すべき内容について事業所内で情報を共有している。 <input type="checkbox"/> 医師に対し、必要に応じて「療養生活上の相談」、「薬剤に関する相談」等を行っている。 <input type="checkbox"/> 就労支援事業所や相談支援事業所等に対して、必要な支援の協力要請を行っている。 <input type="checkbox"/> その他必要な連携先に情報共有・相談・協力要請を行っている。 <input type="checkbox"/> 連絡ノートやICTにより、多職種・多機関との情報の共有を図っている。	
30	「小児の利用者」について、多職種・多機関との連携の必要性の判断ができ、情報共有・相談・協力要請を行っている	1: 行っていない	<input type="checkbox"/> 多職種・多機関に情報提供・依頼すべき内容が判断できる。 <input type="checkbox"/> 多職種・多機関に情報提供・依頼すべき内容について事業所内で情報を共有している。 <input type="checkbox"/> 医師に対し、必要に応じて「治療方針の確認」、「療養指導内容の確認」、「成長様子の報告」等を行っている。 <input type="checkbox"/> 利用者の療養生活に関して、学校、児童相談所、保健所等と情報を共有し療養相談を受けることができ必要時には指導を行える。 <input type="checkbox"/> 家族の療養上の相談に常時応じることができ、必要な時には主治医などと連携を取りレスパイトサービスを提案することができる。 <input type="checkbox"/> その他必要な連携先に情報共有・相談・協力要請を行っている。 <input type="checkbox"/> 連絡ノートやICTにより、家族や多職種・多機関との情報の共有を図っている。	
31	サービス担当者会議等に参加し、情報提供や提案を行っている	3: 常に参加しており、情報提供や提案もしている	<input type="checkbox"/> ケアマネジャーよりサービス担当者会議の依頼があった場合は、必ず参加することができる体制を取っている。 <input type="checkbox"/> サービス担当者会議に限らず、他機関より依頼があった会議に参加している。 <input type="checkbox"/> 小児や精神疾患を有する利用者等特定のケアマネジャーのいない利用者について必要性を判断し、会議開催の提案をしている。 <input type="checkbox"/> 参加する職種の提案をしている。 <input type="checkbox"/> 利用者の生活上の課題や解決策について情報提供を行っている。 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーションの役割・責任について多職種にわかるように説明している。 <input type="checkbox"/> 不足しているサービスの提案ができる(保険外サービス等も含む)。	
32	他の訪問看護ステーションや医療機関、介護事業所等を含む他職種・他機関からの研修等を受け入れている	2: こちらから情報発信し、研修等を受け入れているが、場合によっては断ることもある	<input type="checkbox"/> 医療機関や介護事業所等の他機関から研修や同行訪問の依頼があった場合、受け入れている。 <input type="checkbox"/> 医療機関や介護事業所等の他機関から研修や同行訪問、コンサルテーションを行えることをホームページなどに掲載している。 <input type="checkbox"/> 医療機関や介護事業所等の他機関から研修や同行訪問、コンサルテーションを行えることを担当者会議等で明示している。	今年度は診療所看護師の実習を受け入れることができた。来年度以降も機会があれば受け入れる用意はある
33	多職種間で共通様式やICTの導入といった情報共有を行うための仕組みづくりに取り組んでいる	3: 既に、整備・使用されている	<input type="checkbox"/> 地域の多職種・多機関のネットワークがある。 <input type="checkbox"/> 地域の多職種・多機関に対し、情報共有を行うための仕組み(共通様式やICTの導入など)づくりの提案をしている。 <input type="checkbox"/> 地域の多職種間や他の訪問看護ステーションで利用できるような共通様式の開発や、ICTの導入などの提案や実際の導入に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 地域の多職種間や他の訪問看護ステーションで利用できるような共通様式があり、その見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 地域の多職種間や他の訪問看護ステーションでICTを活用したシステムを構築し、その利用の促進に貢献している。	

NO.	評価項目	判断基準	評価の着眼点	課題等
34	退院・退所前に利用者の状況をアセスメントし、円滑な在宅生活への移行のための準備を行っている	3: 退院・退所前に利用者の状況をアセスメントしており、円滑な在宅生活への移行のための準備を行っている	<input type="checkbox"/> 病院や施設を訪問し、利用者の状況を確認している。 <input type="checkbox"/> 退院・退所前のカンファレンスに参加している。 <input type="checkbox"/> 退院・退所前のカンファレンスについてこちらから積極的に提案している。 <input type="checkbox"/> 必要に応じて、居宅を訪問し、退院・退所後の居宅の状況を確認している。 <input type="checkbox"/> 退院前より、ケアマネジャーや福祉用具、医療機器業者等と連携を取り、不安や困難がなく退院日より療養生活が始められるようにしている。 <input type="checkbox"/> 退院前より主治医と連携し、在宅での医療ニーズの確認や在宅療養生活における留意点等確認がとれている。	
35	状態の変化等により入院の可能性がある利用者について、利用者等の意向を確認し、対応方針等を事前に主治医等と調整・共有している	2: 入院の可能性がある利用者について、事前に主治医等と調整・共有しているが、不十分である	<input type="checkbox"/> 利用者本人や家族の意向を聞く機会を設けている。 <input type="checkbox"/> 意向を確認したうえで、入院や在宅での治療・療養の可能性について利用者本人や家族と話し合う機会を設けている <input type="checkbox"/> 入院の可能性がある利用者について事業所内で共有している。 <input type="checkbox"/> 利用者の状態や意向について医師と常に情報を共有している。 <input type="checkbox"/> 入院先の調整ができる。	
36	事業所の情報や訪問看護が果たす役割等について、地域住民向けに情報発信を行い、また、幅広い相談を受ける仕組みがある	1: 地域住民向けの情報発信と相談を受ける仕組みがない	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について理念や基本方針において明記している。 <input type="checkbox"/> 相談の窓口を設置し、地域住民に情報提供している。 <input type="checkbox"/> 地域住民が参加できる研修会・説明会等を定期的に開催している。 <input type="checkbox"/> 地域住民から講演の依頼があった場合は必ず受けている。 <input type="checkbox"/> 活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板の利用等で利用者に提供している。 <input type="checkbox"/> 地域の行事や活動には積極的に参加している。	
37	自治体における地域包括ケアシステムの構築に係る方針や計画を理解し、関連する会議等への参加や積極的な提案等を通じて、地域包括ケアシステムの構築に係る取組みに参加をしている	2: 自治体における地域包括ケアシステムの構築に係る方針や計画は理解しているが、関連する会議等への参加や積極的な提案等は行っていない	<input type="checkbox"/> 地域の特性(人口動態、産業、高齢化率、インフラ、社会資源等)を把握している。 <input type="checkbox"/> 自治体における「介護保険事業計画」「医療計画」「地域福祉計画」を理解している。 <input type="checkbox"/> 自治体における地域特性を活かした地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 地域ケア会議等、地域における会議に(積極的に)参加している。 <input type="checkbox"/> 地域の特性に沿った多職種のネットワークづくりに積極的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 地域包括ケアシステムの構築に向けて、積極的に情報提供・提案を行っている。	管理者が来年度より地域の福祉アドバイザーとして地域活動に積極的に参加する予定
38	行政やボランティア等が行っている、認知症の人が安心して暮らしていける地域づくりの取組みに積極的に参加している	2: 時々参加している	<input type="checkbox"/> 地域における認知症サポートの取組について情報収集や研修に参加している。 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション内で認知症に関する国や地域の動きについて情報収集し、地域貢献について議論する機会がある。 <input type="checkbox"/> 地域の民生委員等と協力し、認知症の人が地域で暮らしていくことの相談に乗ったり、資源等の情報提供を行っている。 <input type="checkbox"/> 地域のボランティア、地域包括支援センターや社会福祉協議会等と協力し、認知症の人が地域で暮らしていくことの相談に乗ったり、資源等の情報提供を行っている。 <input type="checkbox"/> 地域のボランティア、地域包括支援センターや社会福祉協議会等の行う会議に積極的に参加している。	管理者が来年度より地域の福祉アドバイザーとして地域活動に積極的に参加する予定
39	誰でも安心して暮らせるまちづくりのため、地域における訪問看護ステーション間のネットワークの構築に係り、積極的に参加をしている	3: ネットワークの連携に係り、地域内で中心的な役割を果たしている	<input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション連絡協議会などの訪問看護ステーション間の会議には必ず参加している。 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション連絡協議会などでは、役職・役員として積極的にかかわり、運営にも参加している。 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション連絡協議会などにおいて、「まちづくり」に関する議題を提案している。 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション連絡協議会などにおいて、地域の実状やニーズについて情報提供している。	